

みなさんは、『はだかの^{おう}王さま』のおはなしを していますか？

「はだかの^{おう}王さま」が どんな かつこうを していたか、おぼえていますか？
(ヒント：^{ひんと} はだかなのに、^{おう} 王さまだって、どうして わかったのでしょうか？)

そう、あたまに かんむりを のせていたから、ですよね。

ところで、かんむりは、これから おはなしする ものがたりが かかれた ^{いたりあご}イタリア語で、「^{ころな}コロナ」といいます。

(そうです。さいきん、よく みみに する ことばと おなじ、「^{ころな}コロナ」です。)

さて、みなさんは、^{コロナ}冠 を かぶっていない ^{おう}王さまを そうぞうできますか？

このおはなしは、^{コロナ}冠 を なくしてしまった ^{おう}王さまの ものがたりです。さあ、はじまり、はじまり～。

^{おう}王さまと ^{ういるす}ウイルスと ^{コロナ}うしなわれた冠

むかしむかし、あるところに、^{コロナ}冠 のない^{おう}王さまが おりました。

^{コロナ}冠 のない^{おう}王さまは、かなしい^{おう}王さまでした。

^{コロナ}冠 がないせいで、だれからも ^{おう}王さまらしく そんなけいして もらえなかったからです。

この^{おう}王さまが ^{コロナ}冠 のない^{おう}王さまに なってしまったのは、しばらく^{まえ}前、ちびで おかしな かつこうをした ^{ういるす}ウイルスという^{なまえ}名前の ^{コロナ}冠 を ぬすまれたからでした。

その ^{おう}へんてこなやつは、^{コロナ}王さまの ^{コロナ}冠 を ぬすんでから、みんなに「^{コロナ}冠 ウイルス」とよばれるように なって、あたまに ^{あかしろ}赤と白の ^{コロナ}冠 をかぶって いつも あっちこっち、とびまわっておりました。

^{コロナ}冠 ウイルスは、^{みせ}お店という^{みせ}お店に かたっぱしからはいったかとおもえば、みんなの ^{おう}うちにまでもぐりこんで、なんでも ^{おう}かんでも さわるのです。

そして、^{コロナ}冠 ウイルスに さわられると、^{ひと}ものでも、^{おう}うちでも、^{ひと}人でも、みんな、

ほこりが ちょっぴり たまったみたいな ^{あか}赤い ^{あか}ちいさなあとがついて、

そのあとが ^{あか}だんだん まっ赤になって、さわられた^{ひと}人は ^{びょうき}病気になるのでした。

でも、^{コロナ}冠 ウイルスは、^{おう}ごきげんでした。

それどころか、^{なんにち}何日も たたないうちに、^{むら}村が すっかり ^{あか}まっ赤になるのを みて、

おもしろくて おもしろくて たまりませんでした。

しかし、^{おう}王さまのほうは、ちっとも おもしろくありませんでした。

^{けらい}家来たちが、^{なんにち}まいにち ^{コロナ}しらせてくれるのは、ちびの ^{コロナ}冠 だろぼうが、^{おう}王さまの ^{むら}村ぜんたいの

^{いろ}色だけでなく ^{ひと}人びとの ^{ひと}きもちまで ^{ひと}かえていく ようすなのです。

みんなが、^{げんき}どんどん ^{びょうき}元気をなくして、^{びょうき}病気になるっていくと いわれました。

しかも、^{ういるす}ウイルスの ^{おう}かぶっているのが ^{コロナ}王さまの ^{おう}冠 だったために、みんなが、^{おう}きっと ^{おう}王さまは

^{ひと}じぶんたちを ^{ひと}くるしめようと ^{コロナ}冠 を ^{ういるす}ウイルスに やってしまったのだと ^{ひと}かんがえて、

^{おう}王さまのことが ^{ひと}どんどん ^{ひと}きらいに なっていくというではありませんか。これは ^{ひと}たいへんです。

カンカンになった ^{おう}王さまは、ある日、もう、^ひもう、^{コロナ}冠をとりもどすしかない、^{むら}村のくらしをめちゃめちゃにしたあのへんてこなやつをつかまえてやろう、
そう ころに きめました。

そして、いっしょうけんめい ^{けらい}かんがえて、^{けらい}家来たちをあつめて、どうしたらいいか、いけんを
きいて きめることにしました。

どうやったら、^{ういるす}ウイルスをつかまえて ^{コロナ}冠をとりもどすことができるだろうか？

^{おう}王さまと ^{けらい}家来たちは、一日中、^{いちにちじゅう}はなしあいましたが、^{おう}王さまが、これなら いいぞと

おもえるような ^{ちえ}よい知恵は、でてきませんでした。

^{おう}王さまは、とっても がっかりして、そのばんは、しんぱいだけど、とにかく ねることにしました。

^{いたりあ}イタリアには、^{ちえ}よい知恵は、よる、ねむっているときに うかぶもの、という ことわざがあります。

そして、ぐっすり ねむって ゆめを みている うちに、^{おう}王さまの あたまに ^{ちえ}よい知恵が うかびました。

それは、こんな ^{ちえ}知恵でした。

^{おう}王さまが、^{みち}道に あいた ^{どうろこうじ}あなぼこを ^{ひと}ふさいだりする ^{どうろこうじ}道路工事の人の ^{ふく}ふくを きます。

そして、^{いちど}一度 さわったら ^{にど}もう二度と はがれない とびっきり つよくて ^{くろ}まっ黒ののりを

いっぱい いれた ^{ばけつ}バケツを もちます。

こうやって ^{どうろこうじ}道路工事の人に ^{ひと}へんしんして、あくる日、^{ういるす}ウイルスを さがしに ^{むら}村に 行き、

^み見つけたら、なにか ききたいことがあるような ^{ふり}ふりをして、あいてを よびよせます。

そのとき、^{ういるす}ウイルスが ^{みち}ちかづいてくる ^{みち}道に のりを こぼしておくのです。

そうすれば、のりの ところまできて ^{ういるす}きゅうに うごけなくなって もがいている ^{ういるす}ウイルスから、^{コロナ}冠をとりもどすことができるでしょう。

この ^{ちえ}知恵が ^き気に入った ^{おう}王さまは、あくるあさ はやく、おつきの ^{もの}者を よぶと、

すぐに ^{どうろこうじ}道路工事の人の ^{ふく}ふくと くつと ぼうしと てぶくろと、それから、^{みち}道の ^{あなぼこ}あなぼこを

ふさぐための ^{くろ}まっ黒の とくべつな のりと ^{ばけつ}バケツを もってくるように いいました。

ふくや ^{ばけつ}バケツが そろうと、^{おう}王さまは、すっかり ^ききがえて、^{わくわく}ワクワク、^{ときどき}ドキドキしながら、

やる ^き気 いっぱい、おしろを でて、だれにも ^き気づかれずに、^{むら}村の まんなかへと ^{むか}むかいました。

あの とんでもない ^{ういるす}ウイルスのやつは、いったい どこにいる？

しばらくすると、とおくの ^{みち}道に ^{ういるす}ウイルスの ^{すがた}すがたが ちらりと ^{みえ}みえたので、^{おう}王さまは すぐに

じゅんぴを ととのえました。そして、こえが ^{きこ}きこえるところまで ^{ちか}ちかづくと、こう たずねました。

「^{ういるす}ウイルスさん、ちょっと おしえてほしいことがあるんですけど、こっちまで きてくれませんか？」

それを ^ききた ^{ういるす}ウイルスは、わ〜い、また ^{むら}村の人に ^{さわ}さわられるぞ、うれしいなあと、

ただの ^{どうろこうじ}道路工事の人にしか ^{みえ}みえない ^{おう}王さまの ほうへ ^{むか}むかって きました。

けれども、そばまで きた とたん、^{おう}王さまが ^{みち}道に たっぷり ^たたらしめておいた のりが あしに

べったり くっついてしまいました。

ういるす ウイルスは、くっついてしまった くつを ぬごうと、うでを ^{ばたばた}バタバタさせながら

おおごえで さげびだしました。

そのすきに、王さまは、すばしっこく ^{コロナ}冠を うばって、にげました！

^{コロナ}冠がなくなってしまった ^{ういるす}ウイルスは、もっと おおきなこえで さげび、あばれました。

さわぎを ききつけた きんじょの ^{ひと}人たちが おおぜい かけつけてみると、

なんと ^{コロナ}冠を うしなった ^{ういるす}ウイルスが、じべたに へばりついているではありませんか。

^{ひと}人びとは、よろこびの こえを あげました。

そのなかの ^{ひとり}一人が、^{ういるす}ウイルスを しっかり しばるための なわを とりに いったのは、

だいぶ たってからのことです。

^{ひと}人びとは、^{ういるす}ウイルスの くつを ぬがせると、^{むら}村じゅうを まっ ^{あか}赤にして みんなを ^{びょうき}病気にした

^{ういるす}ウイルスの おそろしい えいきょうを とめるために、ろうやにつれていきました。

いっぽう、おしろにもどった ^{おう}王さまは、^{おう}王さまのふくに きがえて、^{コロナ}冠を あたまに のせると、

^{けらい}家来をつれて ^{むら}村を ねりあるくことにしました。

^{むら}村じゅうの ^{ひと}人たちに みせるためです。

^{おう}王さまが もどってきたことを。

^{おう}王さまは ^{まえ}前とおなじ よい ^{おう}王さまで、^{むら}村には へいわな くらしが もどってくることを。

^{びょうき}病気の人 ^{ひと}は みんな なおしてもらえし、^{ういるす}ウイルスも ろうやにいれられて いなくなった ^{むら}村の くらしは、

これから いままでより もっとすばらしく、みんなが しあわせになることを。

おわり

(Yukari Saito ^{さいとう}齋藤 ^{やく}ゆかり 訳)